

# 博士後期課程

## 19. 授業計画 (シラバス)

共通科目	・ リスク科学特論 (医療判断学含む)	・ ・ ・	127
	・ 組織管理学特論	・ ・ ・	128
	・ 公衆衛生倫理学特論	・ ・ ・	129
	・ 公衆衛生学特論 I (疫学)	・ ・ ・	130
	・ 公衆衛生学特論 II (生物統計学)	・ ・ ・	132
	・ 公衆衛生学特論 III (産業保健・環境保健学)	・ ・ ・	134
	・ 公衆衛生学特論 IV (保健政策・医療管理学)	・ ・ ・	135
	・ 公衆衛生学特論 V (社会行動科学)	・ ・ ・	137
	・ 医学基礎・臨床医学特論	・ ・ ・	139
疫学・生物統計学分野 (専門科目)	・ 疫学特論 I (臨床疫学)	・ ・ ・	141
	・ 疫学特論 II (理論と方法)	・ ・ ・	143
	・ 疫学特論 III (疫学研究の展開)	・ ・ ・	144
	・ 疫学特論 IV (行動科学・社会疫学)	・ ・ ・	146
	・ 生物統計学特論 I (生物統計学応用)	・ ・ ・	147
	・ 生物統計学特論 II (統計モデル)	・ ・ ・	149
	・ 生物統計学特論 III (生物統計学の展開)	・ ・ ・	150
	・ データ解析演習	・ ・ ・	151
	・ 臨床試験特論	・ ・ ・	153
	・ 疫学・生物統計学特殊研究	・ ・ ・	154
産業保健・環境保健学分野 (専門科目)	・ 産業・環境医学特論	・ ・ ・	155
	・ 産業保健学特論	・ ・ ・	156
	・ 産業・環境工学特論	・ ・ ・	157
	・ 公害特論	・ ・ ・	158
	・ 地球環境・災害科学特論	・ ・ ・	159
	・ 産業・環境保健学特論	・ ・ ・	160
	・ 産業・環境保健学特殊研究	・ ・ ・	161
保健政策・医療管理学分野 (専門科目)	・ 保健政策学特論 I	・ ・ ・	162
	・ 保健政策学特論 II	・ ・ ・	163
	・ 医療経済学特論	・ ・ ・	164
	・ 医療管理学特論	・ ・ ・	165
	・ 地域医療学特論	・ ・ ・	167
	・ 国際保健学特論	・ ・ ・	168
	・ 保健政策・医療管理学特殊研究	・ ・ ・	169



科目名	リスク科学特論 (医療判断学含む)	必修	1 単位
-----	-------------------	----	------

科目責任者	矢野 栄二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義

教育目標	リスク科学の基本となる米科学アカデミーのリスク評価の体系を学び、リスク管理に必要な論理的な判断学とそれをリスクコミュニケーションに生かす。						
行動目標	公衆衛生学博士課程の全員に必須とされる共通科目として、環境と健康の関わりを理解することを大きな目的としつつ、その科学的な理解分析の体系として、リスク科学をリスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションそれぞれについて実例を用いつつ学ぶ。有害性の認知と評価、曝露評価の基礎、環境疫学、許容濃度の設定、許容濃度とリスク管理、リスク認知とリスク回避行動、リスクリテラシーおよび医療判断学の各セッションを含む。						
授業計画	回数	日付	時限	担当者		授業内容	
	1	6/4(木)	5	矢野 栄二 原 邦夫	教授 教授	リスクアセスメントとリスクマネジメント	
	2	6/11(木)	5	原 邦夫 矢野 栄二	教授 教授	有害性の認知と評価・曝露評価の基礎	
	3	6/18(木)	5	矢野 栄二 原 邦夫	教授 教授	許容濃度の設定	
	4	6/25(木)	5	原 邦夫 矢野 栄二	教授 教授	環境影響評価	
	5	7/2(木)	5	矢野 栄二 原 邦夫	教授 教授	許容濃度とリスク管理	
	6	7/9(木)	5	原 邦夫 矢野 栄二	教授 教授	リスクリテラシー・リスクコミュニケーション	
	7	7/16(木)	5	原 邦夫 矢野 栄二	教授 教授	リスク認知とリスク回避行動	
	8	7/30(木)	5	矢野 栄二 原 邦夫	教授 教授	医療判断学	
事前準備	・森澤眞輔の「環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－(コロナ社、2011.)」を事前に通読しておく。						
テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布する。						
参考書	・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－, コロナ社、2011.						
評価方法	・レポートおよび試験						

<b>科目名</b>	<b>組織管理学特論</b>	<b>必修</b>	<b>1 単位</b>
------------	----------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	中田 善規 教授		
<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	後期(前半)
		<b>曜日・時限</b>	水曜 2時限
		<b>授業方法</b>	講義

<b>教育目標</b>	医療は大きな社会システムの一部である。その医療も人間から成り立つ組織であることには変わりはない。そうした医療に関する組織でリーダーシップを発揮し組織に貢献するには人間組織の理解が不可欠である。本講義では、組織一般の理解を深めるために一般の経営学を基礎にした学習を行う。また、いわゆる正解のない分野であるため、異なる視点からの討論を中心に講義を進める。これらの内容を通じて、公衆衛生分野で将来のリーダーとなるべき人材として必須の知識・技能を修得することを基本目標とする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間組織一般について説明できる</li> <li>2. その一般理論を保健医療の分野に応用できる</li> </ol>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/16(水)	2	中田 善規 教授	導入
	2	9/30(水)	2	中田 善規 教授	リーダーシップ
	3	10/7(水)	2	中田 善規 教授	組織の質の改善
	4	10/14(水)	2	中田 善規 教授	人材管理戦略
	5	10/21(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション①
	6	10/28(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション②
	7	11/4(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション③
	8	11/11(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション④

<b>事前学習</b>	指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
-------------	---------------------------

<b>テキスト</b>	各授業で予習すべき文献を指定する。
-------------	-------------------

<b>参考書</b>	Drucker PF. Management: tasks, responsibilities, practices. Harper, 1973 岩崎夏海:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら ダイアモンド社 2009年P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳「エッセンシャルズ版マネジメント—基本と原則」ダイアモンド社 2013年
------------	---

<b>評価方法</b>	プレゼンテーション・積極的な授業参加・討論の論点の把握と対応力で評価する。
-------------	---------------------------------------

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生倫理学特論</b>	必修	1 単位
------------	------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	中尾 睦宏 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(前半)	<b>曜日・時限</b>	水曜 4時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎を修得することを基本目標とする。そのため、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。また、真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対して、事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療の現場において意思決定を行う際に必要な医療倫理の基本的な知識・考え方を適用できる。</li> <li>倫理的観点から対応が困難と想定される事例において、自分の考えを述べることができる。</li> </ul>
-------------	--

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	4	中尾 睦宏 教授	医療・公衆衛生倫理学総論 医療倫理に関する歴史的背景を中心に、概略について学ぶ。
	2	4/15(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	医療従事者・患者関係 医療従事者が患者関係を築く上で必要となる基本的事項について学ぶ。
	3	4/22(水)	4	竹内 武昭 講師	終末期医療 終末期医療(安楽死、尊厳死を含む)の現状を学ぶとともに、医学的無益性や医療資源の配分といった観点を含めて検討し、その問題点について討論する。
	4	5/8(金)	4	中尾 睦宏 教授	公衆衛生倫理学の実際 医学的研究を行うに当たって必要な倫理的知識、具体的な倫理申請の手続きなどについて学ぶ。
	5	5/13(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	インフォームド・コンセント 患者の権利、インフォームドコンセントについて、その歴史的背景、法的根拠などについて学ぶ。
	6	5/20(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	ケース・アプローチ 臨床現場で遭遇する具体的な倫理的問題を分析する手法を学ぶ。
	7	5/27(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(1) 公衆衛生倫理学の沿革、主要な倫理的課題、アプローチ方法について学ぶ。
	8	6/3(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(2) パターナリズム、正義など主要な考え方の整理を行い、ケーススタディを用いて討論する。

<b>事前準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>
-------------	--

<b>テキスト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定のテキストは設けない。必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>
-------------	---

<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に指定なし。</li> </ul>
------------	---

<b>評価方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記到達目標を確認するレポートやディスカッションを課す。講義の課題、レポートやディスカッションの内容を総合的に評価する。</li> </ul>
-------------	--

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論 I (疫学)</b>	選択	2 単位
------------	-----------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	木曜 3,4時限	<b>授業方法</b>	講義・演習
-------------	-----	-------------	----	--------------	----------	-------------	-------

<b>教育目標</b>	疫学の基本的な考え方と論文の批判的吟味と研究計画立案能力を修得することを基本目標とする。 ・科学的な思考方法の基礎となり、合理的な意思決定に必須の疫学の考え方を修得する。 ・各種疫学研究の技法を修得し、研究論文の批判的吟味と研究計画立案の方法を学ぶ。 講義の後半は演習にあて、練習問題や質疑を通して理解を確実なものにする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	疫学の定義、因果関係の立証法、疫学研究の倫理指針(同意・個人情報保護を含む)にはじまり、記述疫学研究と仮説検証研究(観察研究と介入研究)の違いといった研究の分類を説明できる。 観察研究では横断研究、縦断研究(コホート研究、症例対照研究)における疫学指標、各種バイアス、研究デザイン上の特徴について説明できる。 介入研究では無作為化比較試験を含む患者臨床試験についてその構造や疫学指標について、システマティックレビュー、メタアナリシスについてもその構造や問題となる各種バイアスについて説明できる。
-------------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
<b>授業計画</b>	1	4/9(木)	3-4	松浦 正明 教授 松田 彩子 助教	医学と疫学 今日の医学の主流である生物医学的考え方と対比しつつ疫学的考え方の位置づけを学ぶ。
	2	4/16(木)	3-4	松浦 正明 教授 桑原 恵介 助教	仮説と因果関係 科学的思考の基礎として仮説の一般構造を考え、それを証明する因果関係の考え方を学ぶ。
	3	4/23(木)	3-4	松浦 正明 教授 桑原 恵介 助教	疫学研究の分類 仮説を証明する論理的方法として疫学研究のタイプ分けを学ぶ。
	4	4/30(木)	3-4	松浦 正明 教授 桑原 恵介 助教	チャンスとバイアス: 誤った判断を引き起こす原因を分類し、そのうちのバイアスのタイプ分けを学ぶ。
	5	5/7(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	疫学研究分類とバイアス: バイアスを疫学研究の分類と関連づけて類型化し、その認知方法を学ぶ。
	6	5/14(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	疫学と統計学
	7	5/21(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	横断研究と記述研究
	8	5/28(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	コホート研究
	9	6/4(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	介入試験、無作為比較対照試験
	10	6/11(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	症例対照研究
	11	6/18(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	メタアナリシス
	12	6/25(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	スクリーニング
	13	7/2(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	Study Critique
	14	7/9(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	疫学研究計画立案
	15	7/16(木)	3-4	松浦 正明 教授 松田 彩子 助教	疫学と公衆衛生

<b>事前学習</b>	・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。
-------------	----------------------

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版 篠原出版新社</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>・「ロスマンの疫学」第2版Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習の課題1割、期末試験7割、講義への参加度2割で判定する。</li> </ul>

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論Ⅱ (生物統計学)</b>	選択	2 単位
------------	-------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	山岡 和枝 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	水曜 1,2時限	<b>授業方法</b>	講義・演習
-------------	-----	-------------	----	--------------	----------	-------------	-------

<b>教育目標</b>	臨床試験をはじめ、医学研究における統計学と疫学方法論の基礎を理解し、さらに統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータに適用し、簡単なデータ解析を行うことができる能力に加えて、医学研究論文を批判的に読むために必要な、統計解析手法に関する基本的な知識を修得することを基本目標とする。 そのため、講義で学んだ内容を演習形式で習得する。主要な統計手法について、統計解析ソフトウェアを用いて実際にデータの解析を行う。
-------------	---

<b>行動目標</b>	医学研究で得られる様々なデータについて、無作為割付とデータの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフでの表示ができる。 推定(信頼区間)と仮説検定の概念を説明できる。 臨床試験で頻出である、反応変数が連続変数、2値変数および生存時間であるそれぞれの場合について、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法を説明できる。サンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整を説明できる。
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	医学研究における調査研究デザイン、無作為割付と統計学
	2	4/15(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データの種類、データの要約
	3	4/22(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データのグラフ表示
	4	5/13(水)	1-2	山岡 和枝 教授	統計的推定と仮説検定(信頼区間とP値)
	5	5/20(水)	1-2	山岡 和枝 教授	連続変数の2群比較
	6	5/27(水)	1-2	山岡 和枝 教授	相関分析、回帰分析、分散分析
	7	6/3(水)	1-2	山岡 和枝 教授	2値変数(割合)の2群比較
	8	6/10(水)	1-2	山岡 和枝 教授	疫学研究における2値変数の解析
	9	6/17(水)	1-2	松浦 正明 教授	生存時間の2群比較
	10	6/24(水)	1-2	根本明日香 講師	サンプルサイズ設定
	11	7/1(水)	1-2	根本明日香 講師	多群比較・多重性の調整
	12	7/8(水)	1-2	根本明日香 講師	反応が連続変数の場合の共変量調整(2)(共分散分析・重回帰分析)
	13	7/15(水)	1-2	丹後 俊郎 教授(客)	反応が2値変数の場合の共変量調整(ロジスティック回帰分析)
	14	7/22(水)	1-2	松浦 正明 教授	反応が生存時間の場合の共変量調整(コックス比例ハザード分析)
15	7/29(水)	1-2	根本明日香 講師	その他の統計解析手法(経時データ解析など)	

事前 学習 準備	講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。さらに2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行うこと。
テキ スト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後俊郎:医学への統計学 第3版、朝倉書店、2013</li> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後俊郎:統計学のセンス、医学統計学シリーズNo.1、朝倉書店、1998</li> <li>・医学研究における実用統計学. DJ Altman著 木船義久・佐久間昭訳(サイエンティスト社)</li> <li>・はじめて学ぶ医療統計学. TDV Swinscow, MJ Campbell著 折笠秀樹監訳(総合医学社)</li> </ul>
評 価 方 法	講義・演習の課題、レポートにより評価し、判定する。

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)</b>	選択	1 単位
------------	-----------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	原 邦夫 教授
--------------	---------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(前半)	<b>曜日・時限</b>	木曜 5時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	産業医学の対象は5千万労働者であり、公衆衛生の個別領域としては最も大きな集団を対象とすることになる。50人以上の事業所全てに義務づけられた産業医制度をはじめ各種の職域健診制度により、産業医学は、それを専門としない者も含め多くの医師や公衆衛生専門職にとって学ぶ必要のある領域となった。また、環境保健学とは、様々な環境中の有害要因による健康影響を制御して健康を保つことを目的としている。そこで、産業保健・環境保健を専門としない公衆衛生専門職が様々な形で関わることの多い、産業保健、環境保健について包括的認識を身に付けることを基本目標とする。そのためにも、この分野の第一線級の経験を聞く。
-------------	---

<b>行動目標</b>	公衆衛生の実務家として、基本的な産業保健の制度、法、組織および産業中毒学の概要を説明できる。 環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく説明できる。 日本の経験である公害からも学び、公害健康被害補償法、発生者負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に説明できる。
-------------	--

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/9(木)	5	矢野 榮二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	公害と環境因子による健康障害 健康概念、有害因子と健康障害と対策
	2	4/16(木)	5	矢野 榮二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場の因子による健康障害 事業場における有害因子と健康障害と対策
	3	4/23(木)	5	矢野 榮二 教授 橋本 晴男 講師(非)	物理的有害因子__石綿 有害因子の中の物理的有害因子の一つ、石綿(アスベスト)と健康障害と対策
	4	4/30(木)	5	原 邦夫 教授 吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 「職場ドック」など職場の良好事例に学ぶ取組み
	5	5/7(木)	5	原 邦夫 教授 神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__有機溶剤 有害因子の中の化学的有害因子の一つ、有機溶剤と健康障害と対策
	6	5/14(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	公害から環境問題 環境中の有害因子による健康障害の実例に学ぶ
	7	5/21(木)	5	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	リスク評価・管理 リスクアセスメントに基づくリスク管理方法について学ぶ
	8	5/28(木)	5	矢野 榮二 教授 原 邦夫 教授	環境疫学 人を対象とした因果関係の研究である疫学の概要とその適用

<b>事前準備</b>	・中央災害防止協会の『労働衛生のしおり』の第Ⅲ章・最近の労働衛生対策の展開の部分に事前に目を通しておく。
-------------	--

<b>テキスト</b>	・毎回授業開始時に資料として配布
-------------	------------------

<b>参考書</b>	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり
------------	---------------------

<b>評価方法</b>	・レポートおよび試験
-------------	------------

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)</b>	選択	2 単位
------------	-----------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	山本 秀樹 教授 中田 善規 教授	<b>配当年度</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(前半)	<b>曜日・時限</b>	①火曜 3,4時限 ②月曜 3,4時限	<b>授業方法</b>	講義
--------------	----------------------	-------------	-----	-------------	--------	--------------	------------------------	-------------	----

<b>教育目標</b>	保健医療政策とは限られた保健医療資源を如何に適正に分配するための原理・原則と行動計画を策定することにある。保健医療政策とは幅広い分野であり、我が国の保健医療政策について歴史および現状を理解した上で、国際的視野で保健医療政策に関する基本的な考え方を修得することを基本目標とする。また、医療現場では様々な問題が日々起こり、それに対して適切な対応を適時に求められる。そのためには医療現場の現状を知り、起こりうる問題の根本原因を見いだせることが必要となる。医療管理の基本的経営手法や医療管理に必要な経営学・経済学をベースに医療現場の現実や医療安全上の問題点等を管理者の立場で正確に把握し、解決方法を提示できる能力を身に付けることを基本目標にする。
-------------	---

<b>行動目標</b>	保健医療専門職として従事する場合に、国・自治体、国際機関などの政策を理解した上で自分の専門業務を行うことができる。医療管理上必要な医療組織・法律・医療制度・医療安全管理・医療倫理等を概観し、それぞれの問題点について議論し説明ができる。昨今マスコミなどで話題となっている医療問題についても、その根本原因を複雑な医療制度・体制・組織と関連付けて説明できる。将来医療管理者の立場に立ったときにこれらの能力を実際の場面に応用できる。
-------------	--

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	<b>①保健政策学</b>				
	1	4/7(月)	3	山本 秀樹 教授	オリエンテーション (健康とは?保健医療政策について)
	2	4/7(月)	4	山本 秀樹 教授	医療資源の配分に関する考え方 (公衆衛生と倫理・人権的側面)
	3	4/14(月)	3	山本 秀樹 教授	我が国の保健医療政策の歴史
	4	4/14(月)	4	井口 直樹 教授	我が国の保健医療政策の概要(現状)
	5	4/21(月)	3	山本 秀樹 教授	医療費の仕組みについて
	6	4/21(月)	4	山本 秀樹 教授	我が国の医療保険制度について
	7	4/28(火)	3	橋本 英樹 講師(非)	健康と社会的決定要因 (1)
	8	4/28(火)	4	橋本 英樹 講師(非)	健康と社会的決定要因 (2)
	9	5/12(火)	3	渋谷 健司 講師(非)	世界規模の保健医療政策について-WHOの役割と保健医療制度の国際比較(1)
	10	5/12(火)	4	渋谷 健司 講師(非)	世界規模の保健医療政策について-WHOの役割と保健医療制度の国際比較(2)
	11	5/19(火)	3	田宮菜奈子 講師(非)	Health Service research 保健医療サービスの質・その評価について
	12	5/19(火)	4	田宮菜奈子 講師(非)	高齢者福祉医療・介護保険制度について (3)
	13	5/26(火)	3	山本 秀樹 教授	保健医療統計と政策評価について
	14	5/26(火)	4	山本 秀樹 教授	感染症対策・母子保健対策(ワクチンの評価について)
	15	6/2(火)	3	山本 秀樹 教授	まとめ

②医療管理学					
授業計画	1	4/13(月)	3	中田 善規 教授	導入
	2	4/13(月)	4	中田 善規 教授	有害事象の未然防止
	3	4/20(月)	3	中田 善規 教授	戦略的思考
	4	4/20(月)	4	中田 善規 教授	苦情相談への対応
	5	4/27(月)	3	中田 善規 教授	モチベーション
	6	4/27(月)	4	中田 善規 教授	発生した有害事象への適切な対応
	7	5/1(金)	3	中田 善規 教授	感染症に関する安全管理
	8	5/1(金)	4	中田 善規 教授	医療機器に関する安全管理
	9	5/11(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制①
	10	5/11(月)	4	中田 善規 教授	モチベーション
	11	5/18(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制②
	12	5/18(月)	4	中田 善規 教授	暴力対応・刑事事件化対応など
	13	5/25(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制③
	14	5/25(月)	4	中田 善規 教授	薬剤に関する安全管理
	15	5/25(月)	5	中田 善規 教授	組織行動管理・まとめ
事前学習準備	<p>①受講生の間での討論を重視するので、講義中に指示された資料・参考書・文献を事前に熟読しておくこと。          ②第1回講義時に指定する書籍(参考書・論文など)を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。</p>				
テキスト	<p>①特に指定しない          ②特に指定しない</p>				
参考書	<p>①国民衛生の動向2013/2014(厚生統計出版)、OECD publications (Health at a Glance 2013 OECD Indicators, Health Care Quality Indicators Project Initial Indicators Report - OECD Health Working Papers No.22, 2006他)、Encyclopedia of Bioethics (丸善) 他          ②第1回講義時に指定する。</p>				
評価方法	<p>①最終試験(70%)、レポート(20%)、講義における議論の参加度(10%)で総合評価する。          ②積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50%、レポート提出:50%</p>				

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論 V (社会行動科学)</b>	選択	2 単位
------------	---------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	中尾 睦宏 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	水曜 3時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	----	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>医学・医療分野においては、認知行動療法がうつ病、社交(社会)不安障害、摂食障害、腰痛、高血圧など各精神・身体疾患において有効であることを示すエビデンスが蓄積されている。そうした最新の行動医学理論・手法を理解し、心理社会的ストレスが心身に及ぼす影響について説明できる能力を修得することを基本目標とする。そのため、授業では行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。また、古典的条件付け、オペラント条件付け、自己効力感、ローカス・オブ・コントロールといった行動科学の概念が健康評価にどのように役立つか討論する。</p>
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動科学理論を健康問題へと応用した「行動医学」の概念を踏まえた上で、研修や教育の現場で説明できる。</li> <li>・医療現場での各疾患に対し行動医学的な評価法・対応法のエビデンスがどこまで集積されているか、最近の知見を説明できる。</li> <li>・行動科学の手法を用いたストレスマネジメントを集団に対して指導できる。</li> </ul>
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	3	中尾 睦宏 教授	健康行動科学序論 健康行動科学の健康増進に対する価値を理解する。また健康は自分でもたらすことができるという考えに共感し、生活習慣の前向きな変化を起こす働きかけを学んでいく。
	2	4/15(水)	3	中尾 睦宏 教授	生物学的・心理学的・社会的・スピリチュアルな健康行動モデル 健康行動科学の概念について、生物学的・心理学的・社会的・スピリチュアルの面から多角的に説明できる。生活習慣に対する認知行動療法について最新の知見を学ぶ。
	3	4/22(水)	3	中尾 睦宏 教授	健康行動変容 行動変容のステージ(無関心期、関心期、活動期、維持期)を理解し、各ステージに応じた行動目標を定めることができる。
	4	5/8(金)	3	中尾 睦宏 教授	リラクゼーション反応 リラクゼーション練習に必要な基本要素を説明し、自分に適したリラクゼーション法を身につけるようになる。
	5	5/13(水)	3	中尾 睦宏 教授	自分のこころと向き合う 不安を引き起こす脳内メカニズムについて説明し、認知の歪みに気づき、前向き思考を実践できるようにする。
	6	5/20(水)	3	中尾 睦宏 教授	身体への気付き 心と身体の相互関連、特に身体が思考や感情に及ぼす影響に対する興味を高める。
	7	5/27(水)	3	竹内 武昭 講師	食事とストレス 心身の健康維持のためには、バランスのとれた食事が大切であることを理解する。
	8	6/3(水)	3	竹内 武昭 講師	運動とストレス 身体活動と冠動脈疾患リスクの関係について説明し、患者の健康度に応じた運動療法を指導できるようになる。
	9	6/10(水)	3	竹内 武昭 講師	ストレスへの気付き: ストレス認識は、自己観察の重要な部分であり、認知再構成の土台となることを理解する。
	10	6/17(水)	3	竹内 武昭 講師	認知再構成 認知療法、行動療法、認知行動療法について、臨床応用への歴史を含めて、説明できる。
	11	6/24(水)	3	竹内 武昭 講師	コーピング(ストレス対処): コーピングは、自己の対応の問題点を理解し、意識して行動選択する必要があることを学ぶ。
12	7/1(水)	3	竹内 武昭 講師	コミュニケーション 言語的・非言語的コミュニケーションを理解した上で、共感と主張を基にした効果的なコミュニケーションができるようになる。	

授業計画	13	7/8(水)	3	竹内 武昭 講師	健康行動科学の医学への応用 うつ病、不安障害、腰痛、高血圧など行動医学的治療のエビデンスが蓄積されている病態を整理し、健康行動科学の医学への応用性について学ぶ。
	14	7/15(水)	3	中尾 睦宏 教授 竹内 武昭 講師	健康行動科学の個別テーマ 健康行動科学に関するテーマを定め、その概説をする。その後にグループ単位に分かれてテーマごとに文献検索やグループ討論を行う。
	15	7/22(水)	3	中尾 睦宏 教授	まとめ 健康行動科学の最新の文献を整理し、ストレスマネジメントプログラムの臨床応用について討論をする。
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは指定しないが、事前に自分に合った行動医学または健康行動科学関連の書籍を1通り読んでおくことが望ましい。どの書籍を読んだらよいか分からないときは、下記の指定参考書でも良い。</li> <li>・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>				
テキスト	指定なし。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筒井 末春(著), 大谷 純(著), 久住 眞理(監修). 行動科学概論 (心身健康科学シリーズ). 人間総合科学大学, 2008年</li> <li>・中尾睦宏、熊野宏昭、久保木富房(訳). リラクゼーション反応(The Relaxation Response). 星和書店, 2001年</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の課題、期末試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>				

<b>科目名</b>	<b>医学基礎・臨床医学特論</b>	選択	2 単位
------------	--------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	内田 俊也 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	月曜 1、2時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	----	--------------	----------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>公衆衛生の実務者となるうえで必要とされる医学的知識を包括的に理解すること、基本的な疾患の病因・病態を理解することを基本目標とする。</p> <p>臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義をする。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。理解を助けるためにビデオ学習を積極的に取り入れる。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<p>基礎医学において、「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるかについて、個人と集団それぞれの見地からアプローチできる。</p> <p>臨床医学においては、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患の基本的事項を説明できる。また、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて説明できる。</p>
-------------	--

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/13(月)	1	竹内 武昭 講師	医学の定義・歴史
	2	4/13(月)	2	竹内 武昭 講師	医の倫理
	3	4/20(月)	1	顧 艶紅 講師	メタボリックシンドローム・健康増進
	4	4/20(月)	2	顧 艶紅 講師	人口統計と疾病の変化
	5	4/27(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構成
	6	4/27(月)	2	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:骨・筋肉
	7	5/1(金)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:呼吸器系
	8	5/1(金)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:呼吸器疾患・中毒性疾患
	9	5/11(月)	1	中田 義規 教授	人体の構造と機能:循環器系
	10	5/11(月)	2	中田 義規 教授	臨床医学:循環器系疾患
	11	5/18(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:消化器系
	12	5/18(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:消化器系疾患
	13	5/25(月)	1	高橋 謙造 准教授	主要症状
	14	5/25(月)	2	高橋 謙造 准教授	主要症状
	15	6/1(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:神経系
16	6/1(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:神経筋疾患・運動器疾患	

授業計画	17	6/8(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:生殖器系
	18	6/8(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:婦人科疾患・小児疾患
	19	6/15(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:皮膚・感覚器系
	20	6/15(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:皮膚疾患・眼疾患・耳鼻科疾患
	21	6/22(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:血液、臨床医学:血液・造血器疾患
	22	6/22(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:感染症
	23	7/6(月)	1	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	24	7/6(月)	2	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	25	7/13(月)	1	内田 俊也 教授	人体の構造と機能:泌尿器系・内分泌系
	26	7/13(月)	2	内田 俊也 教授	臨床医学:代謝内分泌疾患・腎泌尿器疾患
	27	7/23(木)	1	顧 艶紅 講師	臨床医学:アレルギー疾患・遺伝病
	28	7/23(木)	2	顧 艶紅 講師	臨床医学:母子保健
	29	7/27(月)	1	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
	30	7/27(月)	2	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの各項目と事前配布資料(ある場合)を講義前に必ず熟読してくること。</li> </ul>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学概論(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)[単行本]北村 諭(著) 出版社: 中外医学社; 4版(2010/02) ISBN-10: 4498079159 ISBN-13: 978-449807915</li> </ul>				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適時、講義時に紹介する。</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の課題、試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>				

<b>科目名</b>	<b>疫学特論 I (臨床疫学)</b>	選択	1 単位
------------	----------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授		
<b>配当年度</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期・後期
		<b>曜日・時限</b>	火曜5,6時限(前期) 木曜3,4時限(後期)
		<b>授業方法</b>	講義

<b>教育目標</b>	<p>科学的な医療の実践に当たり、その根幹となるEBMを学ぶ上で学問的基盤となるのが臨床疫学である。ここでは臨床上のプロセスから生じるテーマ(異常、診断、頻度、リスク、予後、治療、予防)に基づきアプローチし、臨床疫学について学んでいく。具体的にはデータの取り扱い・異常の判断基準、臨床医学的検査の有効性(感度、特異度、事後確率、ROC曲線)、リスクの評価、研究デザインとバイアス、臨床研究で用いられる統計解析結果の解釈(ロジスティック回帰分析、生存分析)、ランダム化比較試験、論文検索(系統的レビュー、コクランライブラリー)、臨床データ管理、臨床ガイドラインの検索と利用法、などについて知識と技能を身に付けることを基本目標とする。そのため、講義時間の後半は、関連する既存臨床疫学研究論文(英文)を順番に学生が選んできて全員で読み、系統的に批判的吟味を行い、論文の適切な読み方、正しい臨床研究の方法を実践的に身に付けていく。</p>
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づく医療(Evidence Based Medicine: EBM)の基盤となる臨床疫学に関する知識を習得し、臨床・保健医療の現場で科学的な医療を実践することができる。</li> <li>・臨床疫学研究論文(英文)を実際に読んで討論し、論文を批判的に吟味することができる。</li> </ul>
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/7(火) 9/17(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	臨床疫学序論 臨床疫学、根拠に基づいた医療のアウトラインについて学ぶ。 臨床疫学研究に関する基本的な知識を再確認するとともに、全体のコースの流れを確認する。
2	4/14(火) 9/24(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	頻 度 頻度について、表し方、取得方法、妥当性に関する解釈などを学ぶ。	
3	4/21(火) 10/1(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	異 常 データの種類、測定性能・変動、異常の判定基準等について学ぶ。	
4	4/28(火) 10/8(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	リスク: 基礎的な概念 リスクの認知、予測、評価及びその応用について学ぶ。	
5	5/12(火) 10/15(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	リスク: 曝露から疾患 コホート研究を中心に、集団を前向きに観察することにより、リスクを評価する方法及び交絡について学ぶ。	
6	5/19(火) 10/22(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	リスク: 疾患から曝露 症例対照研究を中心に、時間をさかのぼって観察することにより、リスクを評価する方法やオッズ比について学ぶ。	
7	5/26(火) 10/29(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	予 後 疾患の転帰としての予後の評価方法について学ぶ。	
8	6/2(火) 11/5(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	診 断 検査の正確さ、感度、特異度、予測値、尤度、繰り返し検査の評価について学ぶ。	
9	6/9(火) 11/12(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	治 療 仮説の検定、介入研究など治療が有効であるかの判断、特にランダム化比較試験を解釈する上で必要となる知識について学ぶ。	
10	6/16(火) 11/19(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	予 防 予防に関連する原理・戦略方法について学ぶ。	
11	6/23(火) 11/26(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	偶 然 仮説検定、必要標本数、信頼区間、多重比較、サブグループ解析、多変量解析、ベイズ理論について学ぶ。	
12	6/30(火) 12/3(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	因 果 因果関係の基本原則、因果関係を支持または否定する根拠について学ぶ。	

授業計画	13	7/7(火) 12/10(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	エビデンスの集約 システマティック・レビューの方法、メタ分析、エビデンスの内容を吟味する方法について学ぶ。
	14	7/14(火) 12/17(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	知識管理 臨床の知識管理に対する最新のアプローチ、臨床診療ガイドラインの利用法などについて学ぶ。
	15	7/21(火) 12/24(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	全体のまとめ、予備日
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全15コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時は事前にどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること。</li> <li>・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。</li> </ul>				
テキスト	Clinical Epidemiology: The Essentials 5th edition Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher Lippincott Williams & Wilkins, 2014 - 255 pg.・「臨床疫学」ロバート・H・フレッチャー他著 メディカルサイエンスインターナショナル				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習の課題2割、講義への参加度4割、各講義前に提出する論文の批判的吟味レポート4割とする。</li> </ul>				

<b>科目名</b>	<b>疫学特論Ⅱ(理論と方法)</b>	選択	1 単位
------------	---------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授		
<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(後半)
		<b>曜日・時限</b>	火曜 4時限
		<b>授業方法</b>	講義

<b>教育目標</b>	疫学の研究デザイン、解析計画を立てる上では、それぞれの分野の特徴に応じて適切な方法を考えることが重要である。本講義では、オムニバス方式の講義により各研究分野を概観し、疫学研究を深める上で必要とされる理論と方法についての知識を修得することを基本目標とする。
-------------	---

<b>行動目標</b>	疫学の研究分野別に、その分野に特徴的な状況、研究の目的、アプローチ法と、適用される理論を説明できる。 (たとえば、地域診断や症候サーベイランスでは空間疫学的アプローチが必要となるし、医薬品の安全性確保などのためには市販後サーベイランスの実際を知る必要がある)
-------------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/9(火)	4	山岡 和枝 教授	社会調査方法論と疫学研究(1)
	2	6/16(火)	4	山岡 和枝 教授	社会調査方法論と疫学研究(2)
	3	6/23(火)	4	桑原 慶介 助教	行動科学と社会疫学(1)
	4	6/30(火)	4	中尾 睦宏 教授	行動科学と社会疫学(2)
	5	7/7(火)	4	松浦 正明 教授	症候サーベイランス(1)
	6	7/14(火)	4	松浦 正明 教授	症候サーベイランス(2)
	7	7/21(火)	4	顧 艶紅 講師	感染症の疫学研究
	8	7/28(火)	4	根本 明日香 講師	市販後サーベイランス

<b>事前準備</b>	2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行うこと。
-------------	---

<b>テキスト</b>	・適宜資料を配布する。
-------------	-------------

<b>参考書</b>	Clinical Epidemiology: The Essentials. Fourth edition. Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher (Lippincott Williams & Wilkins)
------------	--

<b>評価方法</b>	講義の課題、レポートにより評価し、判定する。
-------------	------------------------

<b>科目名</b>	<b>疫学特論Ⅲ(疫学研究の展開)</b>	選択	1 単位
------------	-----------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	Martin Burton客員教授(※)
--------------	----------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	後日通知	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	<p>疫学研究のデザインとデータ解析の概念的基礎を身に付けることを基本目標とする。この「基礎」には原因を定義する概念的根拠、因果推論の理解、疾患発生と曝露の計測、信頼性と妥当性を高めるためのコホート研究と症例対照研究のデザイン、データの解析と解釈のための量的方法が含まれる。</p> <p>そのため本授業では、次のような話題について触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 批判的評価とデータ分析の技術を身につける</li> <li>・ システマチックレビューの正式な過程を使ってエビデンス合成の性質と技術を理解する</li> <li>・ 治療と診断に関する論文評価に必要な基礎的統計概念を復習する</li> <li>・ ガイドラインの理論と作成を理解する</li> <li>・ 臨床ガイドラインを評価する</li> <li>・ 医療政策策定と資源配分の原理を理解する</li> <li>・ 英国医療制度を理解する</li> <li>・ 研究の価値の必要性を認識する</li> </ul>
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 構成要因としての原因と機序に基づく原因を峻別できる。</li> <li>2. 基本的疫学指標の特性を説明できる。</li> <li>3. 主要なコホート研究のタイプを述べ、相互の違いを指摘できる。</li> <li>4. コホート研究と症例対照研究の概念的な類似性と差違を説明できる。</li> <li>5. 影響を推定するときに信頼性とバイアスの果たす役割を述べ、それを以下に制御するかを論ずることができる。</li> <li>6. 測定の演習として研究論文を読むことの利点を説明できる。</li> <li>7. 統計学的相互作用と生物学的相互作用を区別し、後者の測定法を説明できる。</li> <li>8. 層別化分析について回帰モデルとの対比で利点、欠点を列挙する。</li> </ol>
-------------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
<b>授業計画</b>	1			Martin Burton 教授(客)	因果と因果推論
	2			Martin Burton 教授(客)	疫学における発生と影響の指標
	3			Martin Burton 教授(客)	コホート研究のデザイン
	4			Martin Burton 教授(客)	症例対照研究のデザイン
	5		後日通知	Martin Burton 教授(客)	研究デザインにおけるランダムエラーとバイアスの対処法
	6			Martin Burton 教授(客)	データ解析の原則
	7			Martin Burton 教授(客)	生物学的相互作用の推定
	8			Martin Burton 教授(客)	層別化分析対回帰モデル
(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)					
※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。					
※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。					

<b>事前準備</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
-------------	----------------------------

テキスト	<p>Trisha Greenhalgh: How to Read a Paper: The Basics of Evidence-Based Medicine          Bjorn Andersen: Methodological Errors in Medical Research – an incomplete catalogue</p>
参考書	<p>講義で紹介。</p>
評価方法	<p>受講者はすべての講義に出席し、講義前に講義資料を読み、講義内討論に積極的に参加することが求められる。また、コース終了後に最終筆記試験が予定されている。</p>

<b>科目名</b>	<b>疫学特論IV(行動科学・社会疫学)</b>	選択	1 単位
------------	--------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	Ichiro Kawachi客員教授(※)
--------------	-----------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	後日通知	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	人々の健康状態を評価しその理論モデルを構造化するための基本知識の修得と、疫学研究を実証的に進めるために必要な概念や手法を身に付けることを基本目標とする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会階級、性別、貧困、収入格差、ソーシャルネットワーク/サポート、コミュニティの結束、心理社会的な仕事環境、近隣関係など社会的要因が人々の健康に及ぼす影響について理解できるようになる。</li> <li>・上記の考え方をいながらハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明し、コミュニティレベルの健康決定要因、ソーシャルキャピタル、職場ストレスモデルなどに基づいた人々の健康問題への介入方法を提言できるようになる。</li> </ul>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Ichiro Kawachi 教授(客)	健康の社会決定要因の概説
	2			Ichiro Kawachi 教授(客)	予防のパラドックスと予防の戦略
	3			Ichiro Kawachi 教授(客)	社会経済状態、測定と原因とみなせるエビデンス
	4			Ichiro Kawachi 教授(客)	収入格差と健康
	5			Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートと健康
	6			Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルキャピタル、社会の結束と健康
	7			Ichiro Kawachi 教授(客)	心理社会的な仕事環境と健康
	8			Ichiro Kawachi 教授(客)	健康格差の是正:政策の観点から

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<b>事前準備</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
-------------	----------------------------

<b>テキスト</b>	Berkman LF & Kawachi I (eds). Social Epidemiology. New York: Oxford University Press, 2000.
-------------	---

<b>参考書</b>	講義で紹介。 カワチ イチロー. 命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業, 小学館101新書, 2013年
------------	---

<b>評価方法</b>	コース終了後に4つのショートエッセイ形式の問題を含めた2時間の筆記試験を行う。
-------------	---

<b>科目名</b>	<b>生物統計学特論 I (生物統計学応用)</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	----------------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	山岡 和枝 教授		
<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期・後期
		<b>曜日・時限</b>	火曜 1時限
		<b>授業方法</b>	講義

<b>教育目標</b>	<p>医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法に関する基本的な知識を修得することを基本目標とする。そのため、本講義では解析結果を正しく解釈できるよう、モデルの特性について実例を中心として学習する。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<p>医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法(特に統計モデル)について説明できる。各モデルの仮定を理解し、仮定が満たされているかの確認方法、仮定が満たされない場合の対処方法を説明できる。交互作用、変数選択、モデルの当てはまり、結果の解釈などについて、医学論文でどのように報告されるかなどを説明できる。</p>
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/15(火) 9/29(火)	1	山岡 和枝 教授	統計モデル入門
	2	4/21(火) 10/6(火)	1	山岡 和枝 教授	線形モデル(1)
	3	4/28(火) 10/13(火)	1	山岡 和枝 教授	線形モデル(2)
	4	5/12(火) 10/20(火)	1	山岡 和枝 教授	線形モデル(3)
	5	5/19(火) 10/27(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(1)
	6	5/26(火) 11/10(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(2)
	7	6/2(火) 11/17(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(3)
	8	6/9(火) 11/24(火)	1	山岡 和枝 教授	コックス比例ハザードモデル(1)
	9	6/16(火) 12/1(火)	1	山岡 和枝 教授	コックス比例ハザードモデル(2)
	10	6/23(火) 12/8(火)	1	山岡 和枝 教授	関連性の分析
	11	6/30(火) 12/15(火)	1	丹後 俊郎 教授(客)	空間集積性
	12	7/14(火) 12/22(火)	1	山岡 和枝 教授	ポアソン回帰モデル
	13	7/21(火) 2/5(金)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(1)
	14	7/28(火) 2/9(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(2)
15	7/29(水) 2/16(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(3)	

事前 学習 準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全15コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時ほどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること</li> <li>・2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新版 ロジスティック回帰分析. 丹後俊郎・山岡和枝・高木晴良(朝倉書店)</li> <li>・統計モデル入門. 丹後俊郎(朝倉書店)</li> <li>・医学的研究のための多変量解析. MH Katz. 木原雅子・木原正博訳(メディカルサイエンスインターナショナル)</li> <li>・生存時間解析 -SASによる生物統計. 大橋靖雄・浜田知久馬(東京大学出版会)</li> <li>・Cox比例ハザードモデル. 中村剛.(朝倉書店)</li> </ul>
評価方法	<p>講義の課題、レポートにより評価し、判定する。</p>

科目名	<b>生物統計学特論Ⅱ(統計モデル)</b>	選択	1 単位
-----	------------------------	----	------

科目責任者	松浦 正明 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	演習

教育目標	医学研究で用いられる応用的で高度な統計解析手法に関する専門的な知識を修得する。
------	---

行動目標	試験(実験)デザインと統計解析が密接な関係があることを学ぶ。その代表的な解析法が分散分析モデル(線形モデル)の考え方である研究デザインとデータの性質(母数モデル、変量モデル、バランス型、アンバランス型など)に応じた分散分析モデルとその解釈、また、その際浮上する検定の多重性について理解し、多重性を調整する多重比較の方法について学習する。
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/10(水)	4	根本 明日香 講師	一般線形モデル、一般化線形モデル
	2	6/17(水)	4	根本 明日香 講師	分散分析
	3	6/24(水)	4	山岡 和枝 教授	母数効果モデル(1)
	4	7/1(水)	4	山岡 和枝 教授	母数効果モデル(2)
	5	7/8(水)	4	松浦 正明 教授	経時データの分析(1)
	6	7/15(水)	4	松浦 正明 教授	経時データの分析(2)
	7	7/22(水)	4	松浦 正明 教授	階層構造をもつデータの分析(1)
	8	7/29(水)	4	山岡 和枝 教授	階層構造をもつデータの分析(2)

事前準備	2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。 指定した課題について、レポートの提出または授業中の発表を求められることがある。
------	---

テキスト	・適宜資料を配布する。
------	-------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新版ロジスティック回帰分析 ―SASを利用した統計解析の実際―. 丹後俊郎・山岡和枝・高木晴良(朝倉書店).</li> <li>・Applied Longitudinal Analysis 2nd Edn. Fitzmaurice GM, Laird NM, Ware JH. New Jersey: John Wiley &amp; Sons.</li> <li>・統計モデル入門. 丹後俊郎(朝倉書店).</li> </ul>
-----	---

評価方法	演習の課題、発表、レポートにより総合的に評価し、判定する。
------	-------------------------------

<b>科目名</b>	<b>生物統計学特論Ⅲ(生物統計学の展開)</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	---------------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	Marcello Pagano客員教授(※)
--------------	------------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	(未定)	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	この講義はモニタリングと評価研究における一般的な、および新しい量的方法の入門講義である。本講義では、モニタリングと評価研究における統計学の基本的な概念と方法を理解し、適切なデザイン、適切なデータの同定、基本的な統計学的手法、包括的なシステムのための手法の統合、より複雑な方法への応用できる能力の修得を基本目標とする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目の前の課題に対して適切なモニタリング評価システムをデザインできる。</li> <li>2. データの限界を踏まえ適切に解釈することも含め、適切なデータを同定できる。</li> <li>3. プログラムのモニタリング評価で使われる基本的・一般的な統計学的手法を用いることができる。</li> <li>4. 包括的モニタリング評価システムのために複数の手法を統合できる。</li> <li>5. モニタリング評価システムについて、基本要素からより複雑な手法への拡張を説明できる。</li> </ol>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Marcello Pagano 教授(客)	モニタリングと評価(M&E)の紹介
	2			Marcello Pagano 教授(客)	評価の枠組みと指標
	3			Marcello Pagano 教授(客)	集団の測定
	4			Marcello Pagano 教授(客)	統計モデルのレビュー
	5			Marcello Pagano 教授(客)	調査法1
	6			Marcello Pagano 教授(客)	調査法2
	7			Marcello Pagano 教授(客)	M&Eにおける共通するエラー源を修正する方法
	8			Marcello Pagano 教授(客)	ヘルスシステムにおける品質管理

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<b>事前準備</b>	カイ2乗検定や回帰分析などの統計学的手法の基礎に関する事前知識を前提とする。 下記参考書程度の事前知識を前提とする。
-------------	---

<b>テキスト</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
-------------	----------------------------

<b>参考書</b>	生物統計学入門:ハーバード大学講義テキスト(Marcello Pagano, Kimberlee Gauvreau著;竹内正弘監訳.丸善)
------------	---

<b>評価方法</b>	コース終了後に筆記試験を行う。
-------------	-----------------

<b>科目名</b>	<b>データ解析演習</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	----------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	後期	<b>曜日・時限</b>	火曜 2時限	<b>授業方法</b>	演習
-------------	-----	-------------	----	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>実際の医学研究におけるデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、研究デザインやデータの特徴に応じた解析計画の立案・解析の実施・結果の報告について学習し、データハンドリングについての基本的能力を修得することを基本目標とする。</p> <p>そのため、各種統計手法を用いて、交絡要因の調整を含むデータ解析演習およびコンペティションにより理解を深める。また、基礎的データ(I)から複雑なデータ(IV)に関して演習を行い、欠損値等を含むデータハンドリングについて実践に則した技術を学ぶ。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<p>グループ演習を通じて、実際のデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、(1)解析計画の立案、(2)解析の実施と解析報告の作成、および(3)発表を行うことができる。</p> <p>実際の医学研究で行われる、患者背景の集計、主要解析、探索的解析など一連の解析を行うことができる。</p>
-------------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/29(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (1)
	2	10/6(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (2)
	3	10/13(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (3)
	4	10/20(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (1)
	5	10/27(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (2)
	6	11/10(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (3)
	7	11/17(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (4)
	8	11/24(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (1)
	9	12/1(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (2)
	10	12/8(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (3)
	11	12/15(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (4)
	12	12/22(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (1)
	13	2/5(金)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (2)
	14	2/9(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (3)
15	2/16(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (4)	

事前準備 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全15コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時はどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること</li> <li>・グループ演習に際して次回の授業までに解析および発表資料作成を行ってくるなど、授業時間外の取り組みを求める。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床試験ハンドブック. 丹後俊朗・上坂浩之編(朝倉書店)</li> <li>・臨床試験の計画と解析. 上坂浩之(朝倉書店)</li> </ul>
評価方法	<p>演習の課題、発表、レポートにより評価し、判定する。</p>

科目名	<b>臨床試験特論</b>	選択	1 単位
-----	---------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授		
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)
		曜日・時限	火曜 3時限
		授業方法	講義

教育目標	臨床試験の試験実施計画書および解析計画書の内容等の臨床試験の計画、実施、解析および報告を行う際の理論的および実践的両側面と、最高のエビデンスレベルが期待される無作為化比較試験(randomized controlled trials)の統計学的デザインと評価に必要な統計学の基礎知識といった臨床試験に関する専門的な内容の知識を修得することを基本目標とする。 本講義では、最近の臨床試験のトピックスを合わせながら学習する。
------	---

行動目標	臨床的同等性・非劣性試験の評価、グループ逐次デザイン、ブリッジング試験、クロスオーバー試験、クラスター無作為化試験、主要評価項目の測定誤差の評価について説明できる。 試験統計家という立場で必要な薬物動態・薬物力学解析について説明できる。
------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画	1	6/16(火)	3	山岡 和枝 教授	臨床試験概論
	2	6/23(火)	3	山岡 和枝 教授	無作為化比較試験・クラスター無作為化比較試験
	3	6/30(火)	3	松浦 正明 教授	非劣性・同等性試験
	4	7/7(火)	3	松浦 正明 教授	グループ逐次デザイン、ブリッジング試験、クロスオーバー試験
	5	7/14(火)	5	根本 明日香 講師	臨床薬理試験、薬物動態・薬物力学解析
	6	7/21(火)	3	松浦 正明 教授	トランスレーショナルリサーチ
	7	7/28(火)	3	松浦 正明 教授	がんの臨床試験
	8	7/29(水)	3	根本 明日香 講師	倫理・利益相反

事前学習	2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。 指定した課題について、レポートの提出または授業中の発表を求められることがある。
------	---

テキスト	・適宜資料を配布する。
------	-------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無作為化比較試験：デザインと統計解析. 丹後俊郎(朝倉書店)</li> <li>・臨床試験のデザインと解析. J.L.フライス著, KR研究会(関西臨床データ解析研究会)訳(株アーム)</li> </ul>
-----	---

評価方法	講義の課題、発表、レポートにより総合的に評価し、判定する。
------	-------------------------------

<b>科目名</b>	<b>疫学・生物統計学特殊研究</b>	選択	12単位
------------	---------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	研究指導教員(※)						
<b>配当年次</b>	1～3年次	<b>配当学期</b>	前期・後期	<b>曜日・時限</b>	(個別設定)	<b>授業方法</b>	演習

<b>教育目標</b>	疫学・生物統計分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。 尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。						
<b>行動目標</b>	論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。 (より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)						
<b>授業計画</b>	<b>回数</b>	<b>日付</b>	<b>時限</b>	<b>担当者</b>	<b>授業内容</b>		
	<p><b>【概要】</b> 疫学や生物統計学の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p><b>【研究指導教員と主な指導内容】</b> 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の3名から指名される。指導日程については当該指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(山岡和枝) メタアナリシス、無作為化比較試験、社会調査研究、質問票の信頼性研究、QOL研究、その他臨床研究など</p> <p>(中尾陸宏) 行動科学的研究、精神保健に関する社会疫学的研究など</p> <p>(松浦正明) 臨床疫学的研究、トランスレーショナル研究、遺伝情報学的研究、統計学的モデルに関する研究など</p> <p>(福田吉治) 健康の社会的決定要因、健康の社会的格差、健康増進施策に関する疫学研究など</p> <p>尚、研究指導補助教員は以下の3名である。</p> <p>(顧 艶紅) 感染症の疫学的研究、母子保健に関する疫学的研究など</p> <p>(根本明日香) 臨床試験、治験の研究デザインや実施に関する研究、薬剤疫学的研究など</p> <p>(桑原恵介) 疫学的研究など</p>						
<b>事前準備</b>	まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。 その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的にやっていく。						
<b>テキスト</b>	適宜提示する。						
<b>参考書</b>	適宜提示する。						
<b>評価方法</b>	最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。 (詳細については、別途予定されている合同ガイダンスで説明する)						

<b>科目名</b>	<b>産業・環境医学特論</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	矢野 栄二 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	後期(前半)	<b>曜日・時限</b>	水曜 3,4時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	----------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>現行の労働安全衛生法を中心とした我が国の労働衛生の体系とそのための諸機関、諸制度を学び、事例を用いてその実際の運用能力を養成するための講義を行う。欧米および発展途上国の労働衛生の状況を知るとともに、わが国とは異なった自主対応型の労働衛生活動の進め方を学び、そのわが国での応用の可能性を事例を使って学習する。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<p>労働安全衛生法を中心に現行の日本の産業保健の基本となる法令を、関係する政令・規則・通達レベルまで学び、その実際の運用を関連制度・システムの運用の現行と合わせて理解する。また加えて自主管理など諸外国の主な制度・システムを知り日本のそれと対比することで、現状を批判的に分析し改善の方向性を考える能力を養成する。また、産業現場で労働者の健康上に問題となったケースや改善事例、あるいは労働災害としての認定に関する係争や裁判事例を取り上げ、多面的な角度から分析し、各関係者の立場を明確にするとともに、解決の方向性について議論する。</p>
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/16(水)	3	矢野 栄二 教授	環境因子による健康障害の評価と管理
	2	9/16(水)	4	矢野 栄二 教授	化学的因子(1) ガス、酸欠症、金属、有機溶剤・その他有機物、粉じん・粒子状物質、石綿
	3	9/30(水)	3	矢野 栄二 教授	物理的因子(1)放射線・電磁波・温熱、音・振動・気圧
	4	9/30(水)	4	矢野 栄二 教授	生物学的因子
	5	10/7(水)	3	矢野 栄二 教授	社会的因子
	6	10/7(水)	4	矢野 栄二 教授	環境因子による発がん・臓器別障害
	7	10/14(水)	3	矢野 栄二 教授	職業病と作業関連疾患
	8	10/14(水)	4	矢野 栄二 教授	環境因子による健康障害の予防

<b>事前準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Peter J Baxter、et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold. の該当箇所を事前に読んでおく。</li> </ul>
-------------	---

<b>テキスト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Peter J Baxter、et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.</li> <li>•中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.</li> </ul>
-------------	---

<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•中央災害防止協会. 目で見える職業病と労働環境</li> <li>•Peter J Baxter、et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.</li> </ul>
------------	---

<b>評価方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•講義の課題、各自の症例呈示、および期末試験による。</li> </ul>
-------------	--

科目名	<b>産業保健学特論</b>	選択	1 単位
-----	----------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授		
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)
		曜日・時限	木曜 1,2時限
		授業方法	講義・演習

教育目標	より高度な専門実務能力を身につける。とくに、職場巡視における視点を理解し、実際に適用できる能力を獲得する。
------	---

行動目標	実践的な専門知識を持った産業医・産業保健師を育成するためのカリキュラムを提供する。具体的には、労働衛生関連法規並びに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学び、選任産業医のみならず専属産業医としてはもちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍出来る人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業保健師としての人材育成を目指す。
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/17(木)	1	原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視の心得(労働安全衛生法の義務、マネジメント) チェックリストエクササイズ:WISE方式について
	2	9/17(木)	2	原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視の心得(労働安全衛生法の義務、マネジメント) チェックリストエクササイズ:WISE方式について
	3	9/24(木)	1	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	4	9/24(木)	2	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	5	10/1(木)	1	矢野 榮二 教授 小木 和孝 教授(客) 東川 麻子 講師(非)	産業医の実務について 安全衛生のこれからについて
	6	10/1(木)	2	矢野 榮二 教授 小木 和孝 教授(客) 東川 麻子 講師(非)	産業医の実務について 安全衛生のこれからについて
	7	10/8(木)	1	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	8	10/8(木)	2	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談

事前準備	・中央災害防止協会の「労働衛生のしおり」の作業環境管理の章を事前に読んでおく。
------	---

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布。
------	-------------------

参考書	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.
-----	----------------------

評価方法	・試験6割、自らの経験の発表3割、他者の発表への批判的検討1割。
------	----------------------------------

<b>科目名</b>	<b>産業・環境工学特論</b>	選択	1 単位
------------	------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	原 邦夫 教授
--------------	---------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	後期(前半)	<b>曜日・時限</b>	木曜 6時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>作業環境および一般環境中の有害要因の測定および評価で現在行われている作業環境測定の仕組みを学習し、結果として選択すべき対策方法を理解する。さらに、新規有害要因への対応としてのリスク管理の考え方についても学習する。</p>
-------------	---

<b>行動目標</b>	<p>作業環境あるいは一般環境から人および生態系を守るためには、環境からの有害影響をその要因から理解するとともに、それらの測定・評価・対策を実施することが重要である。一般環境あるいは作業環境に存在する様々な有害要因の測定・評価を理解した上で、具体的なケースに基づいて、選択すべき環境制御技術について学習する。産業工学分野としては、作業環境管理・作業管理で用いられる物質の代替、局所排気装置や全体換気装置等の工学的対策、作業方法、ならびに保護具の使用等について学習し、環境工学分野としては、発生源対策としての脱硫、ばいじん防止、排水処理等について学習する。</p>
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/17(木)	6	原 邦夫 教授	日本式産業保健(労働衛生)の3管理・作業環境管理と管理区分および対策の手順・作業環境管理／・作業管理／・健康管理／・代替／・工学的対策／・保護具
	2	9/24(木)	6	原 邦夫 教授	化学物質リスクアセスメントの考え方(コントロールバンディング)
	3	10/1(木)	6	原 邦夫 教授	化学物質リスクアセスメントの考え方(ハザード情報の収集、国連GHS勧告によるハザード分類)
	4	10/8(木)	6	原 邦夫 教授	化学物質リスクアセスメントの考え方(ばく露測定、ばく露とばく露限界値との比較、LOAELなどからばく露限界値の推定方法等)
	5	10/15(木)	6	原 邦夫 教授	曝露推定モデルの活用方法
	6	10/22(木)	6	原 邦夫 教授	局所排気装置(局所排気装置の概要、計算演習、風量測定・評価)
	7	10/29(木)	6	原 邦夫 教授	保護具・人間工学的対策
	8	11/5(木)	6	原 邦夫 教授	産業保健(労働衛生)の専門職のあり方

<b>事前学習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央災害防止協会の「労働衛生のしおり」の作業環境管理の章を事前に読んでおく。</li> </ul>
-------------	--

<b>テキスト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として講義資料を使用する。</li> </ul>
-------------	---

<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.</li> </ul>
------------	---

<b>評価方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートおよび試験</li> </ul>
-------------	---

科目名	<b>公害特論</b>	選択	1 単位
-----	-------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義・演習
------	-----	------	--------	-------	--------	------	-------

教育目標	大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・悪臭・騒音・振動・地盤沈下の典型7公害に代表される、日本が経験した公害の歴史から学び、それらの環境の有害要因から健康を守るための対策をリスク学的に学ぶ。
------	---

行動目標	環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。環境リスク論をベースに環境保健学を理解し、環境問題とそのマネジメントを俯瞰する。
------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/17(木)	5	原 邦夫 教授	環境保健学とは ・環境有害因子と健康／・健康影響メカニズム／基準値／・疫学・毒性学・リスク学との関連
	2	9/24(木)	5	原 邦夫 教授	リスク管理の考え方 ・有害性特定・量反応関係評価・曝露評価・リスク判定・リスク管理・リスクコミュニケーション ・1983年の米国科学アカデミー／EPA白書 ・化審法／・良好事例(化学物質管理のCOSH Essentialsなど)
	3	10/1(木)	5	原 邦夫 教授	有害性の特定 ・物理的・化学的・生物的・社会心理的な危険性・有害性 ・GHS(分類とラベル化)・SDS(ハザード・コミュニケーションツール)
	4	10/8(木)	5	原 邦夫 教授	毒性学 ・栄養と毒性／・摂取、分布、代謝、排泄； 解毒代謝／・PBPKモデル
	5	10/15(木)	5	原 邦夫 教授	量反応関係評価 ・量反応関係と疫学・動物実験 ・外挿法(Benchmark dose),安全係数,不確実係数,NOAEL,LOAEL
	6	10/22(木)	5	原 邦夫 教授	曝露評価 ・曝露とは何か 環境曝露と職業性ばく露、曝露の評価と測定／・大気汚染、室内汚染／・曝露評価モデル
	7	10/29(木)	5	原 邦夫 教授	環境疫学I 基本 ・環境疫学の基本的事項の解説
	8	11/5(木)	5	原 邦夫 教授	環境疫学II 応用 ・環境疫学の適用例の紹介

事学準備	・典型七公害の概略を理解しておく。
------	-------------------

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布
------	------------------

参考書	・庄司 光，宮本 憲一：日本の公害(岩波新書 青版 941)，岩波書店，1975。 ・庄司 光，宮本 憲一：恐るべき公害(岩波新書 521)，1964。
-----	---

評価方法	・レポートおよび試験
------	------------

科目名	<b>地球環境・災害科学特論</b>	選択	1 単位
-----	--------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義
------	-----	------	--------	-------	--------	------	----

教育目標	リスク学的に環境問題について具体的に深く掘り下げて学習する。また、環境災害をマネジメントする視点から、日本の取組みを考察することを狙いとする。
------	---

行動目標	地球規模の環境問題としては、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化、広範囲の海洋汚染、産業廃棄物の国外移送などがある。それぞれの課題を深く理解するためのリスク学的な視点を学習する。さらに環境災害をマネジメントするためのマネジメントシステムを学ぶ。
------	--

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画	1	11/12(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	リスク判定__産業衛生学会・許容濃度委員会 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度など様々な基準
	2	11/19(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	リスクコミュニケーション ・ラベル化とSDS／・ファシリテーター論
	3	11/26(木)	5	矢野 榮二 教授	物理的有害因子__石綿I ・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
	4	12/3(木)	5	矢野 榮二 教授	物理的有害因子__石綿II
	5	12/10(木)	5	矢野 榮二 教授	物理的有害因子__石綿III
	6	12/17(木)	5	原 邦夫 教授	一般環境管理論 ・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
	7	12/24(木)	5	原 邦夫 教授	環境マネジメントシステム ・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実際、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士
	8	2/4(木)	5	原 邦夫 教授	現在の環境問題のまとめ

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森澤眞輔の「環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－(コロナ社、2011.)」を事前に通読しておく。</li> <li>・後半授業開始時まで、2011年の東日本大震災を経て震災対策で公衆衛生が果たすべき役割について提言をA4 I-2枚にまとめておくこと。</li> </ul>
------	--

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業開始時に資料として配布</li> </ul>
------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－, コロナ社, 2011.</li> <li>・Daniel P Aldrich Building Resilience:Social Capital in Post-disaster recovery.(University Chicago Press)</li> </ul>
-----	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートおよび試験</li> </ul>
------	--

<b>科目名</b>	<b>産業・環境保健学特論</b>	選択	1 単位
------------	-------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	David Christiani客員教授(※)
--------------	-------------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	後日通知	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	環境要因への曝露と健康影響の分析を中心に学ぶことで、介入可能な環境因子がいかに公衆衛生にとって重要かという見識を身に付けることを基本目標とする。同時に、批判的思考、チームワーク、広報活動、コミュニケーション等のリーダーシップ技術の重要性についての見識も深める。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境要因と疾病の関係を評価するための通常分析機器や手法を理解し結果を考察できる。</li> <li>・環境要因と疾病の関連を量的に評価するための手法を理解し、公衆衛生施策を立案するに当たりエビデンスに基づく意思決定ができる。</li> <li>・環境や職業性有害物の急性・慢性健康影響を説明できる。</li> <li>・環境や職業性有害物により影響を被る集団を同定するための発生源や曝露経路を分析できる。</li> <li>・環境や職業性有害物の健康影響評価のための手法の特長や限界を説明できる。</li> <li>・有害な環境汚染物質への曝露を減少させ人々の健康を守る方法を説明できる。</li> </ul>
-------------	---

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1			David Christiani 教授(客)	産業環境保健の歴史
2			David Christiani 教授(客)	スクリーニングと調査の基本
3			David Christiani 教授(客)	発がん
4			David Christiani 教授(客)	慢性損傷
5		後日通知	David Christiani 教授(客)	じん肺 (1)
6			David Christiani 教授(客)	じん肺 (2): ILO方式、呼吸機能検査の実際
7			David Christiani 教授(客)	その他の職業性呼吸器疾患
8			David Christiani 教授(客)	重金属、有機溶剤、化学物質損傷の緊急処置

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<b>事前準備</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開されるので授業前に教材を読んでおくこと。
-------------	--

<b>テキスト</b>	Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; Sixth edition. Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas.
-------------	--

<b>参考書</b>	各講義のText Chapterに対応する内容の日本語の教科書を読んでおくことは有用かもしれない。
------------	---

<b>評価方法</b>	8回の講義終了後に試験を行うが、講義への参加も評価に加える。
-------------	--------------------------------

科目名	<b>産業・環境保健学特殊研究</b>	選択	12単位
-----	---------------------	----	------

科目責任者	研究指導教員(※)						
配当年次	1～3年次	配当学期	前期・後期	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

教育目標	産業保健・環境保健分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。						
行動目標	論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	<p><b>【概要】</b> 産業保健や環境保健の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p><b>【研究指導教員と主な指導内容】</b> 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の2名から指名される。指導日程については当該指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(矢野榮二) 産業・環境要因による健康障害の原因、作用様式、対策等について医学的疫学的に調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。</p> <p>(原邦夫) 健康障害の原因となる産業・環境要因の測定、評価技術的対策等について調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。</p> <p>(福田吉治) 化学物質による環境影響について学び、産業現場の化学物質管理につながる学術的研究を指導する。</p> <p>尚、研究指導補助教員は以下の1名である。</p> <p>(竹内武昭) 産業保健領域</p>						
事前準備	まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的に行っていく。						
テキスト	適宜提示する。						
参考書	適宜提示する。						
評価方法	最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。(詳細については、別途予定されている合同ガイダンスで説明する)						

科目名	<b>保健政策学特論 I</b>	選択	1 単位
-----	------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授		
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半) 後期(前半)
		曜日・時限	火曜 5,6時限(前期) 水曜 5,6時限(後期)
		授業方法	講義

教育目標	保健政策とは、国民が健康な生活を維持する上で必要としているニーズと課題に対応するために、あるべき姿と有効な戦略を立案し、有限な保健医療資源を適正かつ公平に配分してこれを実現するための指針と行動計画を策定するものである。本講義では、具体的な保健政策を例に、PDCAサイクル、根拠に基づく健康政策 (Evidence-based health policy)、目標設定と評価、経済分析等の視点から、保健政策のあり方について考察する。
------	--

行動目標	(1)保健政策におけるPDCAサイクルについて説明できる。 (2)根拠に基づく健康政策 (Evidence-based health policy) を概説できる。 (3)保健政策における目標の設定と評価を説明できる。 (4)保健政策における経済的評価として、費用対効果・費用対便益分析を説明できる。 (5)保健政策の立案と評価の過程において必要な基本的理論を概説できる。 (6)学習した理論等を活用し、具体的な保健政策の立案ができる。
------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/9(火) 9/16(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策学入門
	2	6/9(火) 9/16(水)	6	福田 吉治 教授	根拠に基づく健康政策 (Evidence-based health policy)
	3	6/16(火) 9/30(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策における目標設定と評価
	4	6/16(火) 9/30(水)	6	福田 吉治 教授	保健政策におけるリサーチとサーベイの活用
	5	6/23(火) 10/7(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策におけるステークホルダー分析
	6	6/23(火) 10/7(水)	6	福田 吉治 教授	地方自治体の保健政策の立案と評価
	7	6/30(火) 10/14(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策の経済的評価
	8	6/30(火) 10/14(水)	6	福田 吉治 教授	まとめ・総合討議

事前準備	指定する文献・資料等を事前に読んで理解すること
------	-------------------------

テキスト	適宜提示する。
------	---------

参考書	適宜提示する。
-----	---------

評価方法	積極的な授業参加(50%)、課題レポート等(50%)
------	----------------------------

科目名	<b>保健政策学特論Ⅱ</b>	選択	1 単位
-----	-----------------	----	------

科目責任者	Andrew Farmery客員教授(※)
-------	-----------------------

配当年次	1年次	配当学期	冬季(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	集中講義
------	-----	------	--------	-------	------	------	------

教育目標	本講義では医療政策管理の理解に必要な原則・理論を紹介するが、これを通じて、政策の定義と形成過程;政策実行の成功失敗;政策実行の成功要因;政策立案の根拠と知識;健康・医療の管理;医療のリーダーシップについての知識を修得することを基本目標とする。講義では、主に英国やヨーロッパ各国の例を挙げて解説する。
------	---

行動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療政策の複雑性や医療政策分析の理論を説明できる。</li> <li>・医療政策形成過程を実例を用いて説明できる。</li> <li>・医療政策の最近の問題や政策の根拠と知識を批判的に考えることができる。</li> <li>・国による医療制度の違いを比較したり、世界の医療制度が直面する困難について政治的イデオロギーを踏まえて説明できる。</li> <li>・医療制度改革に関してマネジメントやリーダーシップ、文化・価値観等を踏まえて説明できる</li> <li>・医療制度内でパートナーシップが最大限に利用できる方法を説明できる</li> <li>・複雑な医療制度で大変革を起こす方法を説明できる。</li> <li>・医療投資と予防の緊張関係を説明できる</li> </ul>
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Andrew Farmery 教授(客)	医療政策・制度入門
	2			Andrew Farmery 教授(客)	医療制度の定義と比較
	3			Andrew Farmery 教授(客)	公衆衛生政策の最近の発展
	4			Andrew Farmery 教授(客)	行動のための知識:政策への根拠の利用
	5		後日通知	Andrew Farmery 教授(客)	イデオロギーと医療:福祉国家から市場国家へ
	6			Andrew Farmery 教授(客)	医療再編:英国医療サービスの例
	7			Andrew Farmery 教授(客)	複雑な医療制度の管理
	8			Andrew Farmery 教授(客)	健康のリーダーシップ

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

事前準備	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
------	----------------------------

テキスト	Trisha Greenhalgh: How to Read a Paper: The Basics of Evidence-Based Medicine Bjorn Andersen: Methodological Errors in Medical Research - an incomplete catalogue
------	--

参考書	John W Kingdon. Agendas, Alternatives and Public Policies. Longman. 2002. David J Hunter. Public Health Policy. Polity. 2003. David J Hunter. The Health Debate. Policy Press. 2008. David J Hunter, Linda Marks, Katherine E Smith. The Public Health System in England. 2010.
-----	--

評価方法	授業へ参加、小テスト、最終日の提出物
------	--------------------

科目名	医療経済学特論	選択	1 単位
-----	---------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授		
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)
		曜日・時限	水曜 4時限
		授業方法	講義

教育目標	<p>1. オペレーションズ・リサーチの基本的分析ツールとしてのフロンティア分析法を理解する。</p> <p>2. 特にデータ包絡分析法を実際のデータに応用できるようにする。</p>
------	---

行動目標	<p>効率性・生産性の定量的分析は医療管理の要諦であると同時に、医療政策・経済上も極めて重要な意味を持つ。他産業における効率性・生産性の科学的測定は、経済学・経営学・工学分野で2000年以降急速に発展してきた。すでに確立された手法としてはデータ包絡分析や確率的フロンティア分析などが存在し、その応用発展型も盛んに研究されている。こうした手法は海外では企業経営・公共政策・教育・国防などに応用され、それをもとに制度設計や経営方針が決定されている。本講義ではこのフロンティア分析法を身に着けて、自身の研究課題に応用できるようになることを目標とする。</p>
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	11/18(水)	4	中田善規 教授	講義概略・分担決定
	2	11/25(水)	4	中田善規 教授	導入(第1章))
	3	12/2(水)	4	中田善規 教授	効率性の概念(第2章)
	4	12/9(水)	4	中田善規 教授	効率性測定の技術(第3章)
	5	12/16(水)	4	中田善規 教授	医療の効率性測定(第4章)
	6	12/25(金)	4	中田善規 教授	医療の効率性測定:応用(第5章)
	7	2/10(水)	4	中田善規 教授	高度な応用(第6章)
	8	2/17(水)	4	中田善規 教授	将来の方向性(第7章)

事前学習準備	<p>下記教科書・参考書を輪読形式で学生が報告する。それに対して教員は相互討論を促し、補足コメントする。自身で効率性を測りたい題材を用意してくることが望ましい。</p>
--------	--

テキスト	Hollingsworth B, Peacock SJ. Efficiency Measurement in Health and Health Care. Routledge. 2008
------	--

参考書	Ozcan YA: Health Care Benchmarking and Performance Evaluation: An Assessment using Data Envelopment Analysis (DEA). Springer. 2008
-----	--

評価方法	<p>プレゼンテーション・積極的な授業参加・討論の論点の把握と対応力で評価する。</p>
------	--

科目名	<b>医療管理学特論</b>	選択	1 単位
-----	----------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授
-------	----------

配当年次	1年次	配当学期	前期(後半) 後期(前半)	曜日・時限	月曜 3・4時限	授業方法	講義
------	-----	------	------------------	-------	----------	------	----

教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ経済学的ツールを用いて医療問題を分析する。</li> <li>2. 現在日本が直面する医療に関する問題を経済学的視点から理解し、解決方法を提示する。</li> </ol>
------	--

行動目標	<p>医療は大きな社会システムの一部である。その医療を正確に分析するには社会システム分析ツールである経済学が必要である。特にミクロ経済学は絶対不可欠な分析ツールである。また医療経済学で語られる言葉も大半は厳密な経済学的定義があり、それを正確に理解しておくことが有意義な議論の第一歩となる。本講ではすべての基礎となるこの古典的ミクロ経済学を初歩から徹底的に理解し、それを医療に的確に応用できるようになることを目標とする。具体的には初級ミクロ経済学を医療者向けにアレンジして解りやすく時間をかけて講義する。さらに現在社会問題となっている医療問題を取り上げて、ミクロ経済学的分析を応用して問題の経済学的原因を議論する。</p>
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/8(月)	3	中田 善規 教授	導入:医療と経済学①
	2	6/8(月)	4	中田 善規 教授	経済学的思考・相互依存と交易の利益②③
	3	6/15(月)	3	中田 善規 教授	医療の需要・供給と平衡④⑥
	4	6/15(月)	4	中田 善規 教授	医療の弾力性⑤
	5	6/22(月)	3	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険1
	6	6/22(月)	4	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険2
	7	7/6(月)	3	中田 善規 教授	医療消費者・医療生産者と市場効率⑦
	8	7/6(月)	4	中田 善規 教授	税のコスト⑥⑧
	9	7/13(月)	3	中田 善規 教授	外部性・公共財と共有資源⑩⑪
	10	7/13(月)	4	中田 善規 教授	患者の需要理論(消費者選択理論)⑫
	11	7/23(木)	3	中田 善規 教授	医療の生産理論・生産費用⑬
	12	7/23(木)	4	中田 善規 教授	完全競争市場での医療の価格と生産⑭
	13	7/27(月)	3	中田 善規 教授	独占での医療の価格と生産⑮
	14	7/27(月)	4	中田 善規 教授	独占的競争と寡占の下での医療の価格と生産⑯⑰
15	8/3(月)	3	中田 善規 教授	まとめとテスト	

授業計画	16	9/14(月)	3	中田 善規 教授	導入・解説・輪読分担決定(第1章)
	17	9/14(月)	4	中田 善規 教授	医療経済学のためのマイクロ経済学ツール(第2章)
	18	9/28(月)	3	中田 善規 教授	健康の生産(第5章)
	19	9/28(月)	4	中田 善規 教授	医療の生産・費用・技術(第6章)
	20	10/5(月)	3	中田 善規 教授	健康資本の需要(第7章)
	21	10/5(月)	4	中田 善規 教授	健康保険の需要と供給(第8章)
	22	10/19(月)	3	中田 善規 教授	消費者選択と需要(第9章)
	23	10/19(月)	4	中田 善規 教授	非対称情報とエージェンシー(第10章)
	24	10/26(月)	3	中田 善規 教授	健康保険市場の構成(第11章)
	25	10/26(月)	4	中田 善規 教授	マネージド・ケア(第12章)
	26	11/2(月)	3	中田 善規 教授	非営利会社(第13章)
	27	11/2(月)	4	中田 善規 教授	病院と長期ケア(第14章)
	28	11/9(月)	3	中田 善規 教授	医師開業(第15章)
	29	11/9(月)	4	中田 善規 教授	医療労働市場と職業訓練(第16章)
30	11/16(月)	3	中田 善規 教授	まとめ	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全30コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時は事前にどの講義を受講するかを科目責任者とよく相談をすること。</li> <li>・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。</li> </ul>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Mankiw NG. Principles of microeconomics. 5th Ed. Cengage Learning, Mason, OH. 2008 (訳本:マンキュー経済学第2版ミクロ編、東洋経済新報社)</li> <li>・Folland S, Goodman AC, Stano M. The economics of health and health care. 7th Ed. Pearson, Upper saddle River, NJ. 2013</li> </ul>				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンキュー経済学第2版ミクロ編、東洋経済新報社</li> <li>・橋本英樹、泉田信行:医療経済学講義 東京大学出版会 2011</li> </ul>				
評価方法	積極的な授業参加、プレゼンテーション、討論の論点の把握と対応力で評価する。				

<b>科目名</b>	<b>地域医療学特論</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	----------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	高橋 謙造 准教授
--------------	-----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(後半)	<b>曜日・時限</b>	火曜 1,2時限	<b>授業方法</b>	講義・演習
-------------	-----	-------------	--------	--------------	----------	-------------	-------

<b>教育目標</b>	地域における保健医療に関する課題の発見と問題解決を、地域のステークホルダーと協働で行える能力を養成することを基本目標とする。その際、1) 医療の利用や健康づくりに関する住民の視点、2) 保健医療活動を行う提供者の視点、3) 地域社会における両者の協働の視点から多角的に捉える力を養う。そのため、本授業では、演習または講師および受講生同士でディスカッションを通して、理論と手法を学ぶ。
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健に関する理論展開の変遷、医療人類学的な発想、地域住民への働きかけ、保健医療計画の立案と実践の手法について説明できる。</li> <li>・公衆衛生専門家として調査研究活動を通じた課題発見、課題解決を行うことができる。</li> </ul>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/9(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域保健学概論・コミュニティと健康
	2	6/9(火)	2	高橋 謙造 准教授	日本の地域保健発展の歴史(人材はどう育っていったか?)
	3	6/23(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域診断概論(計画・立案)
	4	6/23(火)	2	高橋 謙造 准教授	地域診断概論(調査・分析・データの取り扱い)
	5	7/7(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(講義/実習)
	6	7/7(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習1)
	7	7/14(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習2)
	8	7/14(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習3)

<b>事前学習</b>	履修学生に事前に配布する。
-------------	---------------

<b>テキスト</b>	特に指定しない。
-------------	----------

<b>参考書</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Where There is No Doctor: Village Health Care Handbook David Warner</li> <li>2. 医療人類学入門:波平恵美子 著 朝日選書</li> <li>3. 援助とエンパワーメント:佐藤寛 編 アジア経済研究所</li> </ol>
------------	--

<b>評価方法</b>	積極的な授業参加50%、発表およびレポート50%
-------------	--------------------------

科目名	<b>国際保健学特論</b>	選択	1 単位
-----	----------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授
-------	----------

配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	水曜・5,6限	授業方法	講義・演習
------	-----	------	--------	-------	---------	------	-------

教育目標	<p>国際保健を実践する上で、プロジェクトの計画から立案および評価までの管理(プロジェクト・マネジメント)をいかに適切に行うかが重要である。そこで、本科目では、国際保健に関連したプロジェクトについて、(1)計画から評価までの一連の管理方法、(2)計画・評価するために必要なデータの活用方法を学習する。前者では、具体的な事例に基づき、プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)等によりプロジェクトを計画・実施、評価する管理能力を養うことを目標とする。後者では、問題解決型方式に則り、問題を見出すことから、公表データの分析を通じて実証し、各ステークホルダーの位置づけを検討するなどより実践的な問題解決能力を養うことを目標とする。</p>
------	--

行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生ならびに国際保健におけるプロジェクト・マネジメントおよびPDCAサイクルの意義と重要性について説明できる。</li> <li>2. プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)等のプロジェクト・マネジメントの具体的な方法を説明し、具体的な事例に活用できる。</li> <li>3. 実際のデータを用いて、問題解決型方式に則り課題解決に取り組むことができる。</li> <li>4. 科学的根拠に基づいた政策やプロジェクト企画立案ができる。</li> </ol>
------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/10(水)	5	福田 吉治 教授	政策形成プロセスおよびプロジェクト・マネジメントについて
	2	6/10(水)	6	福田 吉治 教授	プロジェクト・マネジメントの具体的な進め方
	3	6/17(水)	5	福田 吉治 教授	プロジェクト・マネジメントの事例検討(1)
	4	6/17(水)	6	福田 吉治 教授	プロジェクト・マネジメントの事例検討(2)
	5	6/24(水)	5	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ①データの使い方と分析 事例紹介
	6	6/24(水)	6	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ②データの使い方と分析 演習
	7	7/1(水)	5	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ③データ分析と成果の報告
	8	7/1(水)	6	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ④得られた科学的根拠をいかに政策に反映するか

事 学 前 習 準 備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定された授業用テキスト等を読み、授業内での議論に備える。</li> <li>2. 一部、データ分析を必要とすることから生物統計・疫学、保健医療政策学等の復習を行う。</li> </ol>
----------------------------	--

テ キ ス ト	授業開始前に提示する。
------------------	-------------

参 考 書	授業開始前に提示する。
-------------	-------------

評 価 方 法	講義の課題および授業内での発言・発表・討議参加(50%)、課題レポート等(50%)
------------------	---

科目名	<b>保健政策・医療管理学特殊研究</b>	選択	12単位
-----	-----------------------	----	------

科目責任者	研究指導教員(※)						
配当年次	1～3年次	配当学期	前期・後期	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

教育目標	保健政策・医療管理学分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。
------	---

行動目標	論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)
------	--

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画	<p><b>【概要】</b> 保健政策や医療管理学の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p><b>【研究指導教員と主な指導内容】</b> 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の3名から指名される。指導日程については当該指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(中田義規) 医療管理学の実務に活かされるような現場でのデータ収集と分析方法などを研究指導する。</p> <p>(福田吉治) 国内外の保健医療政策に必要な医療の質に関する研究指導をする。</p> <p>(矢野榮二) エビデンスベースの公衆衛生学を指導する。</p> <p>(井上まり子) 国内外の保健医療政策の科学的根拠になるような疫学研究などを研究指導する。</p> <p>尚、研究指導補助教員は以下の1名である。</p> <p>(高橋謙造) 地域医療やプライマリ・ヘルスケアに関する研究指導を補助する。</p>				

事前学習準備	まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的にやっていく。
--------	--

テキスト	適宜提示する。
------	---------

参考書	適宜提示する。
-----	---------

評価方法	最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。(詳細については、別途予定されている合同ガイダンスで説明する)
------	--